

1月 給食だより

2019年度
安中市学校栄養士会



あけましておめでとうございます。本年もおいしい給食をつくってまいりますので、よろしく願いいたします。1月は全国学校給食週間があります。これを機に身近な給食の役割について知り、考えてみましょう。



学校給食は、明治22年に山形県の鶴岡市の私立忠愛小学校で貧困児童を対象に行われたのがはじまりです。毎日おいしい給食を食べられることに感謝しましょう。



学校給食は、戦争のために中断されていましたが、戦後の食糧難により児童の栄養状態が悪化したことから、その必要性が叫ばれるようになり、再開することになりました。

まず試験的に、昭和21年12月24日に、三都県（東京、神奈川、千葉）で実施することになり、同日に東京都内の小学校でうら（アメリカの宗教団体等からなるアジア救済公認団体）からの給食用物資の贈呈式が行われました。その日を学校給食感謝の日と定めていましたが、その後、冬期休業と重ならない1月24日から30日までの間を「学校給食週間」としました。

家族で給食について語り合ってみませんか

好きな献立や給食時間の印象深い出来事など、給食の思い出を家族みんなで話してみましょう。今の給食と昔の給食の違うところ、同じところなどを知ることができるかもしれません。

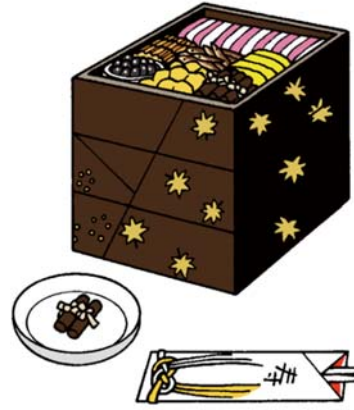


おせち料理の意味を知ろう

おせち料理とは、もともと五節句（1月7日・七草、3月3日・桃の節句、5月5日・菖蒲の節句、7月7日・七夕、9月9日・菊の節句）などの節目に、神様にお供えた料理のことをいいます。本来は五節句の時につくられていましたが、今では、正月のみにつくられるようになりました。

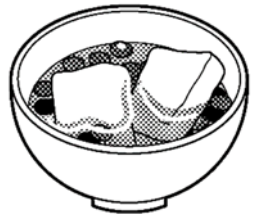
1月1日のおせち料理は、お正月の間は料理をせず、家族みんなで楽しく過ごせるようにと、料理を作っておくようにしたのが始まりです。

おせち料理に入っている黒豆は、まめに暮らせるように、数の子は子孫繁栄、田づくりは五穀豊穰、たたきごぼうは豊年と急災、えびは長寿などの願いが込められています。



1月11日は鏡開きの日

鏡開きとは、お供えた鏡もちを下げて食べる年中行事です。お供えたもちには、神様が宿っているので刃物で切らずに木づちや手などで小さく割ります。割ったもちは、おしるこやぜんざいなどにして食べましょう。



七草がゆ

1月7日は「七草」といって、春の七草を入れたおかゆを食べます。1年間病気をせず、無事に暮らせることを祈って食べるものです。七草は「せり・なずな・ごぎょう・はこべ・ほとけのざ・すずな（かぶ）・すずしろ（だいこん）」です。それぞれにからだのためになるはたらきがあります。お正月にごちそうを食べたおなかを休ませる意味もあるようです。



1月24日～1月30日は全国学校給食週間です。学校給食週間中は学校給食始まりの献立や、群馬にちなんだ「おっきりこみ」や前橋発祥の「前橋ton-ton汁」、安中市学校栄養士会考案の「遠足汁」などいろいろなメニューが登場します。楽しみにしててくださいね♪

給食を通して私たちが住んでいる群馬県についてみなさんがより関心をもってもらえるとうれしいです。

